

区分・種別	県指定史跡		
名称	たかのちょうえいちくぞうのだいばあと 高野長英築造の台場跡		
所在地	南宇和郡愛南町久良		
所有者	松平達二	管理団体	愛南町
指定年月日	昭和25年10月24日		
解説	<p>深浦湾の南西端に突き出た天^{てん}巖^{きはな}鼻の断崖上に、高野長英の設計にかかる砲台(台場)跡がある。遺跡は海面から約20mの小台地であって、三方は自然の断崖、西方は岬の丘陵につづいている。広さ33aの平坦地に、高さ1～1.5mの石塁を築き、大砲2～3門を構えていたようである。現在は昔日の面影をわずかにとどめているだけである。</p> <p>幕末、各藩は異国海防のため、要害の地に砲台を築造した。開明的であった宇和島藩主伊達宗城^{むねなり}は、藩軍備の近代化に取り組んでいたが、たまたま幕府の探索を逃れて潜伏中の高野長英(「^{ばんしゃ}蝮社の^{ごく}獄」で入牢中に逃走)をかくまい、軍備研究と実践にあたらせた。長英は4人扶持と翻訳料を支給されて、オランダ兵学研究、翻訳、著作にたずさわり、『砲家必読』『三兵^{たく}答久知機』『知^ち彼^ひ一^{いち}助^{じょ}』等の翻訳を行うとともに、藩の求めに応じてこの砲台の設計をおこなった。</p> <p>長英は翌嘉永2(1849)年、わずか1年あまりで宇和島を去るが、砲台は同3(1850)年5月頃完工し、蘭学を通じて藩風の革新に寄与した点は特筆される。</p>		

